

そういんNEWS

「顔の見える関係」から「語り合える関係」に
～発言力がある組織づくりを目指して～



三重県介護支援専門員協会桑員支部
支部長 佐藤久美

今年度より新役員・委員体制で事業に取り組み、早いもので終盤に差しかかりました。会員や関係機関の皆さまのご協力を得て、当会の事業が円滑に実施できますことを心から感謝申し上げます。

今年度の事業目標は、会員数の増員と会員間のより密な関係づくりです。桑員支部は三重県内でも松坂支部に次ぐ会員数であります。残念ながら支部管轄での介護支援専門員の割合からすると未だ非会員で活動されている方も多のが現状です。

「入会して何のメリットが・・・」という声も聞かれますが、最大のメリットは職能団体として、自分達の地位そして仕事を守りことであり、ひとりでは届かない声も職能団体として現実的な発信をすることができます。研修事業を中心に共に学び、顔の見える関係づくりを行って参りましたが、地域包括システムの要となる私達自身が組織として、関係機関に積極的に声を届けていきたいと思います。そして、介護支援専門員の未来を良くするために、同職種間での語り合える場づくりも必要と感じており、この事業も進めて参ります。これからも皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



壇上で地域のケアマネジャーへエールを送る
伊藤なるたか桑名市長



令和2年2月15日 桑名シティホテルに於て

はじめての桑員支部 ケアマネ交流会をおこないました

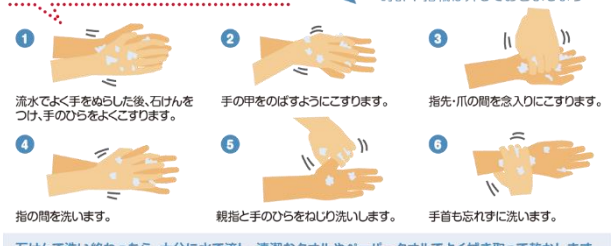
桑名シティホテル 令和2年2月15日（土）

去る令和2年2月15日、桑名シティホテルにおいて、はじめての桑員支部ケアマネ交流会を開催致しました。この企画は、佐藤久美新支部長就任の年度当初より「ケアマネ同士が語り合える関係を築きたい」という支部長の強い思いのもと、盛大にとりおこなうことが出来ました。会の冒頭には、伊藤なるたか桑名市長からの挨拶もあり、地域で活躍するケアマネジャーに対して労いの言葉をいただくことが出来ました。また、伊藤市長はその後の懇親会の席では、忙しい公務の中、時間のゆるす限り一人一人のケアマネジャーと膝をつき合わせて真剣に話し込んでいる姿が印象的でした。市長とともにご参加いただいた桑名市保健福祉部介護高齢課課長 若松覚様、介護予防支援室室長 伊東幸子様には、急遽登壇していただき、佐藤支部長とアドリブでの対談「久美の部屋」にお付き合いいただきました。桑員支部では初めての試みとなった交流会は、盛会のうちに幕を閉じました。第2回、第3回と続けていけたらと思いました。

■新型コロナウイルスに感染しないようにするために

まずは、石けんやアルコール消毒液などによる手洗いを行ってください。咳などの症状がある方は、咳エチケットを行ってください。また、持病がある方などは、上記に加えて、公共交通機関や人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

正しい手の洗い方



ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗います。

令和元年度 三重県介護支援専門員協会桑員支部 研修会報告

第4回研修会

「介護支援専門員が知っておきたい年金の基礎知識」

～年金の基本事項の確認と近年の法改正について理解を深める～

日 時： 令和元年11月14日（木）14：00～16：00

講 師： 山地EAP社会保険労務士事務所 社会保険労務士 山地 雅子 氏

介護支援専門員のアセスメントには経済的な面のアセスメントも必要です。本人や家族を支援する時に、介護支援専門員として必要最低限の社会保障の知識がないと、適切な支援が難しくなってしまいます。

年金は福祉の制度と同じで申請主義です。きちんと手続きをしないと、本人が不利益を被ってしまいます。適切な支援が出来るように、介護支援専門員には、支援者として必要な知識を持つことが求められています。



年金・保険制度働き方など、新しく制度改正もあり、日々の業務で不安になることもありますが、今後仕事をするうえで心強い研修会でした。

研修参加者からも、「知っているようで知らないことがたくさんあり、理解が出来た。」「基礎的なことが理解できた。」「今後役に立てていきたい。」等々好評でした。

第2回研修会

「記載要領に基づく居宅ケアプラン作成」

介護支援センター「よつばの里」 成澤 正則 氏

「ケアプラン記載の一連の流れが知りたい」「記載の基本を学びたい」等、皆さんからの熱いご要望に応え成澤正則先生による【記載要領に基づく居宅ケアプラン作成】の研修が7年ぶりに行なわれました。今回の参加者は、三泗地区の会員21名を加え総勢130名程でした。

研修は、居宅サービス計画書第1表から第7表の項目の1つ1つについて記述方法が説明され、各自の振り返りができたようです。中でも“総合的な援助の方針”では、緊急時連絡先は、家族ではなく病院や医師の連絡先や生活援助中心型の訪問介護を位置づけるための算定理由の必要性、“週間スケジュール”にインフォーマルサービスや朝食後内服、点眼薬などの記載の必要性について述べられました。

最新情報として“ターミナル加算”は、今までは本人の同意での加算であったが本人に告知していない場合もあるので、本人または家族の同意で加算が算定可能であることが照会されました。(介護保険最新情報vol. 736)



研修報告は、三重県介護支援専門員協会のHPにも掲載しています

この研修報告は、毎回研修会終了後2～3週間後に三重県介護支援専門員協会ホームページに掲載しています。研修に参加できなかった会員さんにも情報提供しています。活用してください。

<http://mie-cma.com/>



第3回研修会

「人生の最後の自己決定を考えよう」 ～自分らしく過ごすためのACP～

講師

津中部西地域包括支援センター

認知症地域支援推進員 南部 好宏 氏
保健師 石田 裕恵 氏

私たちは利用者さんと出会った時から終末期を伴走することになります。

前半の座学ではACPの知識を持っているかどうかでその人の人生が変わることを学びました。

本人が人生の最後である終末期～死を選んでもいいことを実感しました。

後半のカードゲーム式のもしバナゲームでは人生の最後にどうありたいかを考える機会を頂きました。

これらを通して担当の利用者が終末期に何を大切にしているかが分かるようにしておくことが大事であることを学び、実際のケアマネジメントに生かしていこうと思う研修となりました。

第1回研修会

「病気が見える講座2019」

～今話題のフレイル、サルコペニアってなに？～

日時：令和元年5月24日(金) 14：00～

場所：東員町

講師：有限会社 サトラサービス
代表取締役 内田 都良 氏

毎年の総会と同時開催の研修でお世話になっている内田先生から「フレイル」についてご講演をいただきました。

いつも、高齢者医療に関する知識をわかりやすく、ポイントを絞った内容でご説明いただいておりますが、今回はケアマネジャーが訪問時のアセスメントで注意する視点や、混同してしまい勝ちな用語などについても、その違いなどを解説いただきました。

また、数値的な項目だけで食生活や栄養状態を見るだけでなく、具体的な目安なども説明いただき、実際に高齢者に接する際に具体的に相手に伝える方法についても知ることができました。

「栄養」「筋力」「筋肉量」などの細かい項目で個別に把握するだけではなく、本人の意欲や気持ちも含めた広い視野でのみ把握方法についても学ぶことができた良い研修でした。

「こんな研修が受けない！」研修に関するご要望は、皆さんのお近くの研修委員までお寄せください。